

令和7年度
「ちばっ子の学び変革」
推進事業研究状況報告書

浦安市立浦安中学校

浦安中学校について

▶ 全校生徒数・・・612人

⇒ 1年生6クラス

2年生6クラス

3年生6クラス

特別支援学級2クラス

◎ 1学年6クラスを対象に数学科で習熟度別少人数授業を実施

⇒基本コース（学級の3分の1程度）

⇒標準コース（学級の3分の2程度）

令和7年度
浦安市立浦安中学校

【研究主題】

**個別最適な学びによる学習意欲と学力の向上を
目指した授業展開の在り方**

～一斉授業と習熟度別少人数授業の実践を通じて～

報告書目次

▶ 1. 主題設定の理由

- (1) 自校生徒の実態と課題
- (2) 目指す生徒像及び研究仮説

▶ 2. 今年度の実践

- (1) 学習用 I C T コンテンツの実施について
- (2) 加配教員を活用した習熟度別少人数授業の実施について
- (3) 検証授業の実施について
 - 検証授業①（習熟度別少人数授業）（10月実施）
 - 検証授業②（一斉授業）（10月実施）
 - 検証授業③（習熟度別少人数授業）（1月実施）
- (4) 意識調査アンケートの実施について

▶ 3. 研究の成果と課題

- (1) 成果
- (2) 課題

1. 主題設定の理由

(1) 自校生徒の実態と課題

▶ <R 6 実施 全国学力・学習状況調査の結果より>

- ①学力別調査結果（数学）において、平均正答率が全国平均より下回っている。
- ②平日に学校以外の学習が30分より少ない、または全くしていない生徒の割合が全国平均より上回っている。
- ③「数学の勉強は好きですか」の問いに対する肯定的な意見の生徒の割合が全国平均より上回っている。
- ④「数学の授業の内容はよくわかりますか」の問いに対する肯定的な意見の生徒の割合が全国平均より上回っている。

1. 主題設定の理由

(1) 自校生徒の実態と課題

▶ <全国学力学習状況調査の結果を踏まえた自校生徒の課題>

- ①学校での授業は意欲的に参加し、内容については授業内で理解できていると感じている生徒が多い一方で、学習内容が定着していない生徒の割合が多い。 ⇒反復学習（復習）が十分ではない

- ②家庭学習が平日に30分以下、または全く行っていない生徒の割合が大きい一方で、通塾しながら熱心に家庭学習に取り組む生徒も多いため、学力の二極化が発生していると考えられる。
⇒習熟度別の個に応じた授業展開が必要

1. 主題設定の理由

(2) 目指す生徒像及び研究仮説

▶ <目指す生徒像>

自らの関心や能力に応じて課題の解決方法を模索し、他と協働しながら意欲的に学習に取り組む生徒

▶ <研究仮説>

- ①自身の到達度に応じて達成目標を設定し、学習用ICTコンテンツを用いて学習の調整・評価を行うことで、学力が向上するだろう。
- ②習熟度別少人数授業を通し、「個別最適な学び」の考えに基づいた協働的な授業展開を実施することで、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、学習意欲が向上するであろう。

2. 今年度の実践

▶ <実践方法>

- (1) 学習用ICTコンテンツ（ドリルパーク）を用いた、個別最適な学習教材の提供および実施
- (2) 加配教員を活用した習熟度別少人数授業の実施
- (3) 検証授業の実施（年間2回）
- (4) 生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施（年間2回・1学年で実施）

2. 今年度の実践

(1) ドリルパークを用いた個別最適な学習教材の提供および実施 (指導の個別化)

▶ <実践内容>

◎ 毎授業の冒頭5分間で、GIGA端末を用いてドリルパークを実施する

⇒原則として、単元や難易度は自分で選択するが、

AIドリル（自動選択）の実施も可

⇒生徒の振り返りから、教師が必要と感じた場合は単元を教師が選択し、配信する場合がある

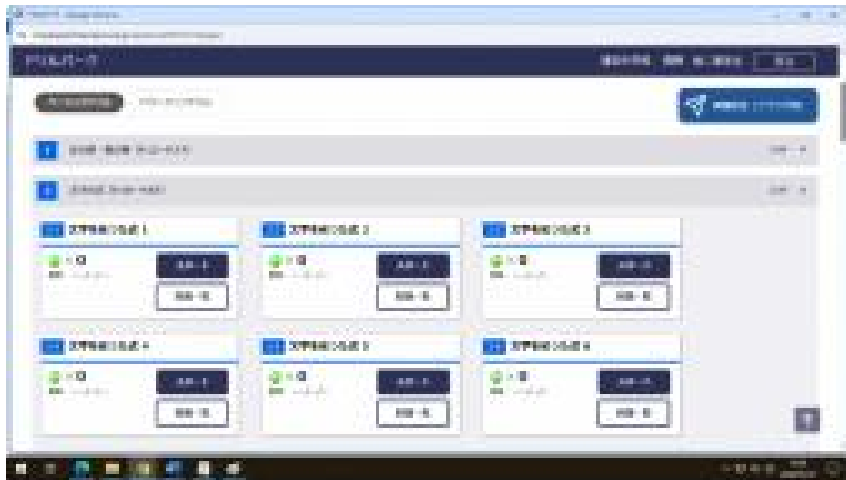


冒頭5分間でGIGA端末を開き、ドリルパークに取り組む生徒の様子

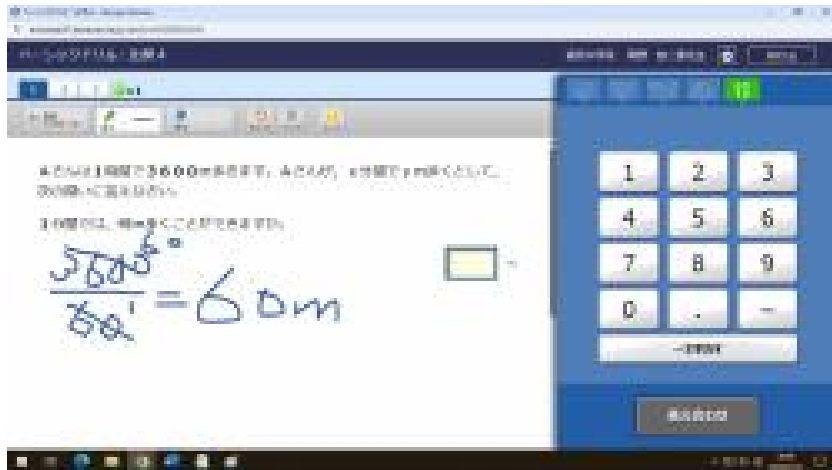


付属のタッチペンで画面に直接途中式を書いて回答する生徒の様子

ドリルパークの 具体的な実践（指導の個別化）



①生徒が自らの理解度に応じた単元や難易度を選択する



②付属のタッチペンを用い、問題に取り組む



③必要に応じて、正答率が低い問題から教員が問題を選択し、教材を配信

2. 今年度の実践

(2) 加配教員を活用した習熟度別少人数授業の実施 (指導の個別化)

▶ <実践内容>

◎加配教員1名を活用し、第1学年6クラスにおいて6月より全授業において習熟度別少人数授業を実施

⇒標準コース（25～30人程度）

通常授業に加え、発展的な課題にも取り組む

⇒基本コース（7～12人程度）

習熟度に応じた教材を提供し、個に応じた授業展開を実施

2. 今年度の実践

(3) 検証授業の実施 (年間2回)

▶ 展開① (習熟度別少人数授業) (10月実施) ▶

- ◎ 単元 「反比例 $y = \frac{a}{x}$ のグラフ」 (第一学年)
- ◎ 学習課題 「比例定数 a の値を変えたときに、双曲線はどのように変化するだろう」
- ◎ 本時の目標 「変数や定数の値が変化するときの、反比例のグラフの特徴を考察し表現することができる」

展開① 主な流れ

標準コース

a の値を変化させたときの反比例のグラフにおいて、自分が調べたい事गरを設定して、G I G A 端末のグラフ描画アプリ (Geogebra) で調べ学習を行う

(学習の個性化)

共有アプリ (オクリンクプラス) に投稿し、他者が調べた事गरと自分の調べた事गरを共有・検討する

(協働的な学び)

自分の調べた事गरと他者が調べた事गरから、オクリンクプラスのカードに**自分の言葉**で反比例のグラフの特徴をまとめる

見いだす

学習課題の提示

自分で取り組む

広げ深める

まとめあげる

基本コース

$a=6, a=8$ など、具体的な例を提示し、変化を予想させる導入を行い、G I G A 端末のグラフ描画アプリ (Geogebra) で実際に調べてみる

(指導の個別化)

a の値を変化させたときに気づいた事गरをノートにまとめ、他者と共有・検討する

(協働的な学び)

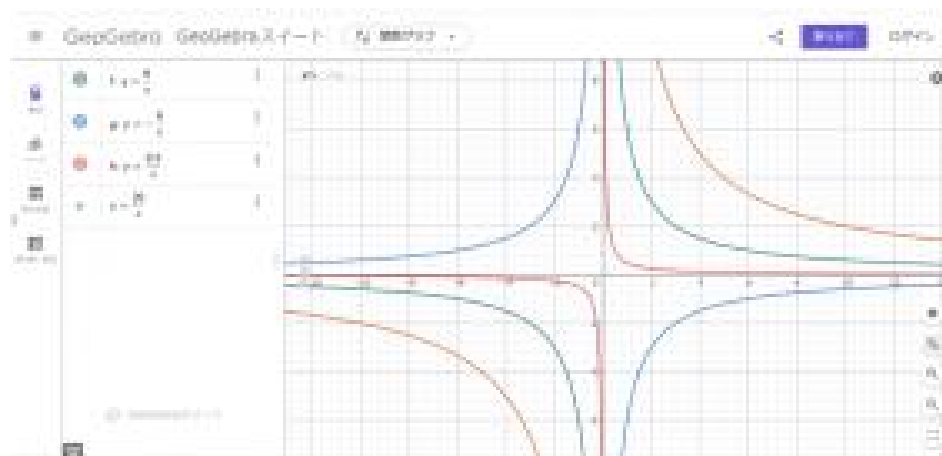
自分が気づいた事गरと他者が調べた事गरから、ノートに**自分の言葉**で反比例のグラフの特徴をまとめる



Geogebraを利用しながら自分が知りたいと思った事からをオクリンクプラス上でまとめている様子

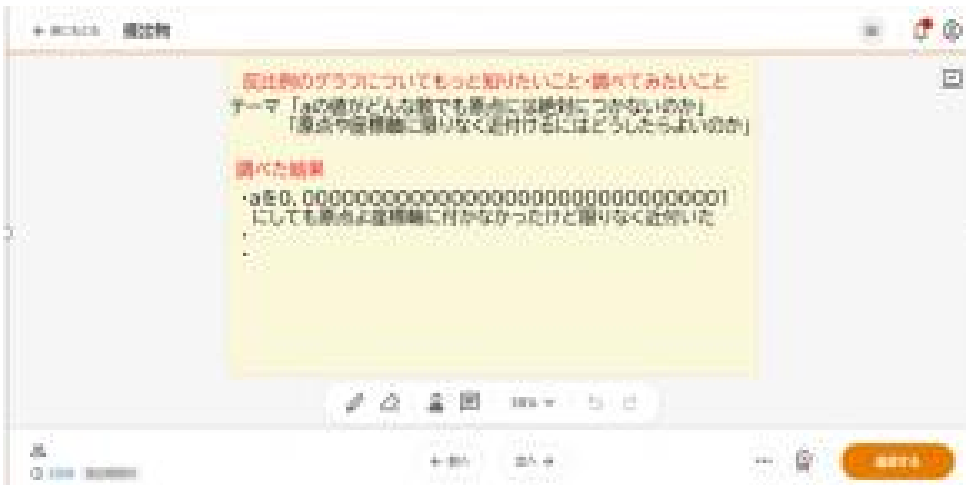


自分と他者が調べたことをもとに、自分の言葉で反比例のグラフの特徴をまとめている様子



Geogebraで生徒が描いたグラフ

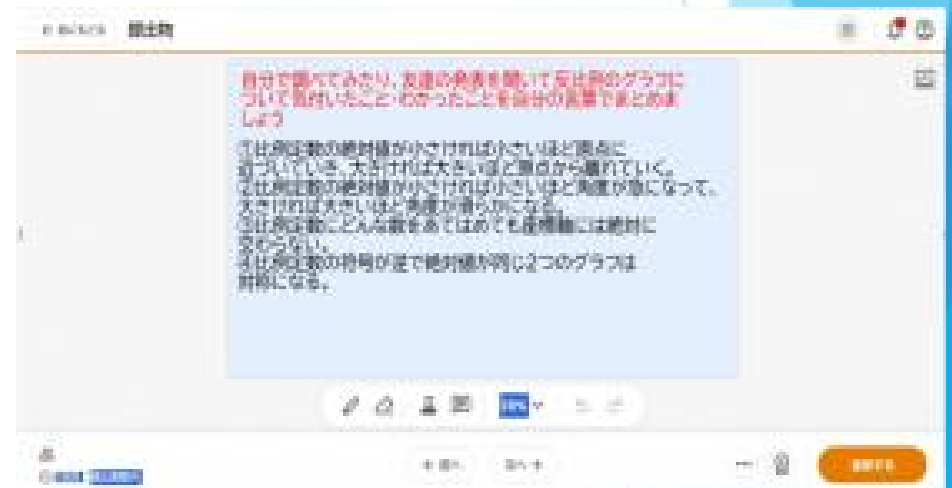
オクリンクプラスを活用した 具体的な実践（学習の個性化）



①自分で学習課題（調べたいこと）を設定し、
Geogebraを利用して調べ学習を行い、カードにまとめる



②カードを提出BOXに提出し、他の生徒の
調べ学習の結果を共有する



③自分の言葉でグラフの特徴でわかったことを
カードにまとめて提出する

2. 今年度の実践

(3) **検証授業**の実施 (年間2回)

▶ 展開② (一斉授業) (10月実施) ▶

- ◎ 単元 「多角形の角」 (第二学年)
- ◎ 学習課題 「ブーメラン型図形のへこみの角度はどうやって求めることができるか」
- ◎ 本時の目標 「へこみのある図形の角度の求め方を、平行線や角の性質を基にして確かめ、説明することができる」

展開②主な流れ

学習課題の提示

オクリンクプラスのカードでブーメラン型の角度の求め方を示す。手が進まない生徒は、あらかじめ用意されているヒントカードを確認しながら作業を進める。

(指導の個別化)

コース別課題解決学習に取り組み、他の意見を取り入れたり、自分に合ったコースを選択しながら自力解決したりすることで、様々な考え方で問題の答え方を考える活動を行う。

(指導の個別化) (協働的な学び)

自分の考えと他者の考えから、ブーメラン型の角度の求め方を自分の言葉でまとめる。

見いだす



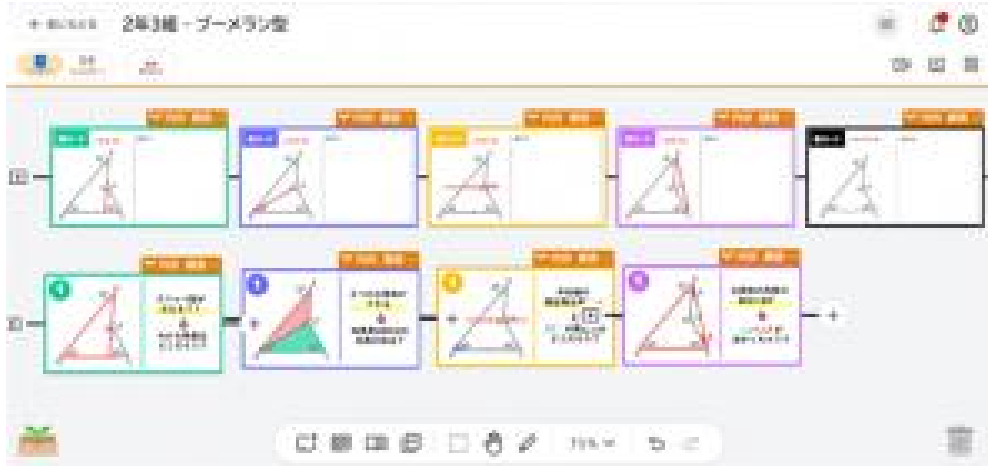
自分で取り組む



広げ深める

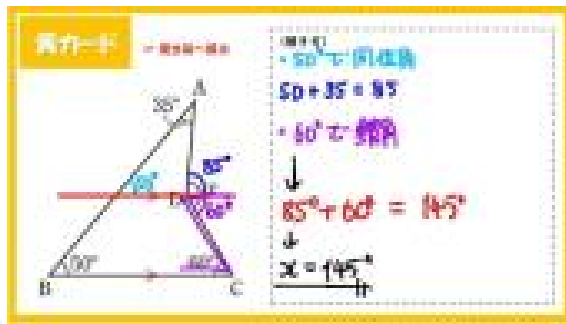


まとめあげる



コース別課題解決学習の 具体的実践 (指導の個別化) (オクリンクプラスを利用)

- ①補助線ごとに別れたカード（上段）を選択し、ヒントカード（下段）を利用して考えを記入する



- ・ 自力で解決コース
- ・ 友達と協力して解決コース
- ・ 先生と一緒に解決コース

- ② コース別課題解決学習により、コースを自分で選択し、教室内で別れて作業の続きを協働的に行う。タッチペンで図に直接考え方を書き込み、カードを提出する



- ③他者の考え方を共有し、ブーメラン型の角度の求め方ノートにまとめる

2. 今年度の実践

(3) **検証授業**の実施 (年間2回)

▶ 展開③ (習熟度別少人数授業) (1月実施) ▶

- ◎ 単元 「円とおうぎ形の計量」 (第一学年)
- ◎ 学習課題 「牛が草を食べられる面積はどのように求められるだろう？」
- ◎ 本時の目標 「問題場面をおうぎ形として捉え、必要な数量を自ら判断・選択して解決している」

展開③主な流れ

標準コース

三角形の小屋に紐でつながれた牛が移動できる範囲を図で表して求める。

(指導の個別化)

コース別課題解決学習に取り組み、他の意見を取り入れたり、自分に合ったコースを選択しながら理解を深める。

(指導の個別化) (協働的な学び)

話し合い活動や課題解決学習で理解したことをワークシートに**自分の言葉**でまとめ、発表する

見いだす

学習課題の提示

自分で取り組む

広げ深める

まとめあげる

基本コース

四角形の小屋に紐でつながれた牛が移動できる範囲を図で表して求める。

(指導の個別化)

コース別課題解決学習に取り組み、他の意見を取り入れたり、自分に合ったコースを選択しながら理解を深める。

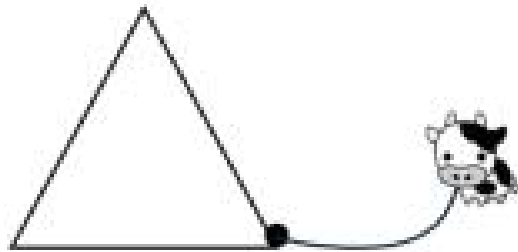
(指導の個別化) (協働的な学び)

話し合い活動や課題解決学習で理解したことをワークシートに**自分の言葉**でまとめ、発表する

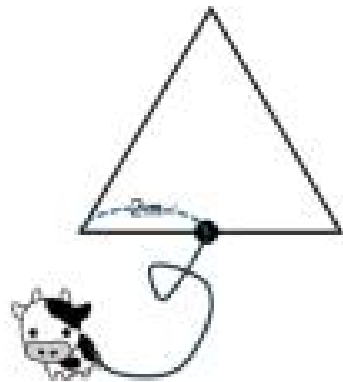
基本コースと標準コースによる発展課題の精選（指導の個別化）

標準コース（三角形の小屋）⇒ やや難しい

2 牛は図のように1辺が4mの正三角形をした小屋に4mのひもでつながれています

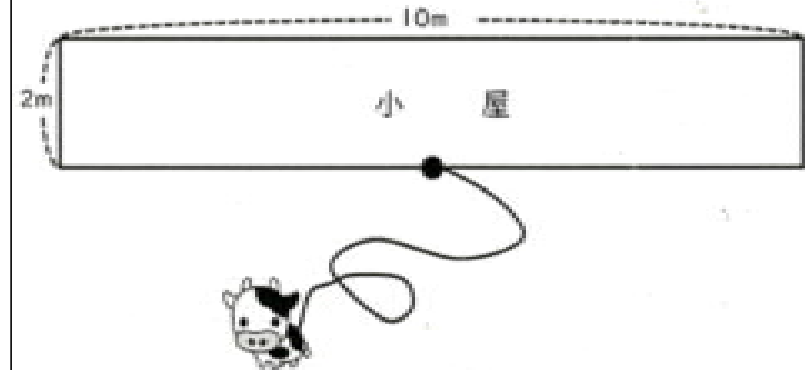


3 牛は図のように1辺が4mの正三角形をした小屋に4mのひもでつながれています。



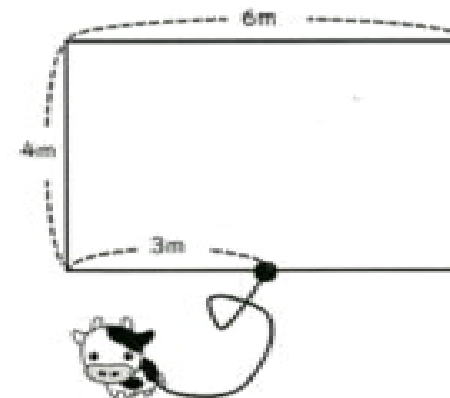
基本コース（四角形的小屋）⇒ やや易しい

2 牛は図のように小屋の壁に5mのひもでつながれています。



3 牛は、図のような長方形の小屋に5mのひもでつながれています。

(1)



コース別課題解決学習の実践（指導の個別化）

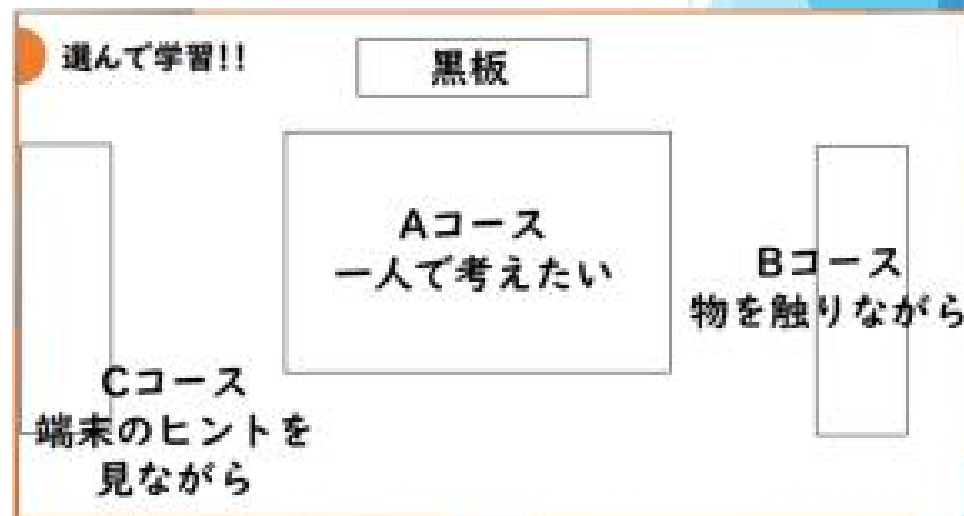
標準コース

- Aコース 一人で考える
- Bコース 友達と協力して考える
- Cコース 教具を使って考える
- Dコース ヒント動画を見ながら考える
- Eコース ヒントスライドを見ながら考える



基本コース

- Aコース 一人で考える
- Bコース 教具を使って考える
- Cコース 端末のヒントを見ながら考える
(動画、スライド)



コース別課題解決学習の実践（指導の個別化）



少人数でグループを作り、相談しながら課題解決する様子（**協働的な学習**）

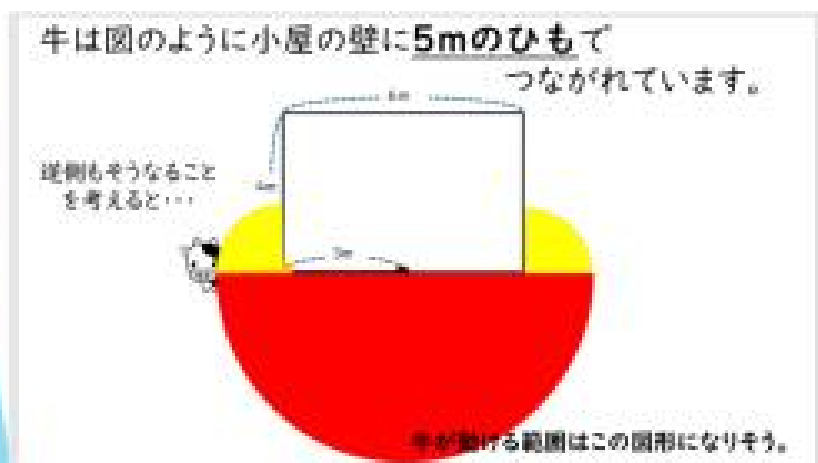


自作教材を操作しながら牛の動きを直感的に理解しようとする様子

コース別課題解決学習の実践（指導の個別化）



端末のヒントをもとに理解しようとする生徒の姿



スライドによるヒント



動画によるヒント（教師によるデモンストレーション）

2. 今年度の実践

(4) 生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施

◎ 意識調査アンケート回答の平均値

※ 回答数195名 (1学年生徒) ※ 5段階で回答

	<u>6月</u> (習熟度別授業実施前)	<u>1月</u> (習熟度別授業実施後)
①数学の学習は好きである	3.9	3.7
②小学校より数学を学習したいという意欲は上がった	3.4	3.8
③授業中にわからないところは解決できた	3.3	3.9
④授業中に自分の考えや疑問を表現できた	2.9	3.7

2. 今年度の実践

(4) 生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施

◎ 標準コース・基本コースに分けてからの授業で、自分に当てはまると思うものはどれですか？

※複数回答可

※回答数195名 (1学年生徒)

項目	人数 (割合)	項目	人数 (割合)
①授業の内容がわかるようになった	<u>124人</u> (64%)	⑤質問の回数が増えた	<u>41人</u> (21%)
②授業が楽しくなった	<u>125人</u> (64%)	⑥基本的な問題が解けるようになった	<u>133人</u> (68%)
③手を挙げる回数が増えた	<u>24人</u> (12%)	⑦応用的な問題が解けるようになった	<u>74人</u> (38%)
④発言が多くなった	<u>60人</u> (31%)	⑧定期テストの点数が前回より10点以上上がった	<u>54人</u> (28%)

2. 今年度の実践

(4) 生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施

◎ 標準コース・基本コースで分けて授業をしたことについての感想を自由に書いてください

<標準コース>

○授業の内容も早く進んで、応用問題などもやるから問題に取り組む時間が増えたので、標準コースでよかった。

○スライドとかヒントカードとか友達とやるとか、学習の仕方が選べるのがいいと思った。

<基本コース>

○授業をゆっくり進めてくれるのがよかった。

○前は習ったことを理解できないこともあったけど、基本コースでそれがなくなった。

○少人数だから先生が助けてくれることが増えて、できないことができるようになった。

○話し合いの時間や一人で考える時間がたくさんあってうれしい。

○わからない問題もわかるようになったから、テストの点数も40点くらい上げられた。

2. 今年度の実践

(4) 生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施

◎ ドリルパークを毎授業5分間実施したことは効果があったと思いますか？

※ 回答数195名 (1学年生徒) ※ 5段階で回答

	5 (そう思う)	4	3	2	1 (そう思わない)
人数 (割合)	41人 (21%)	83人 (43%)	40人 (21%)	25人 (13%)	6人 (3%)

◎ そう思った理由を書いてください

- 間違えた問題を すぐに復習できて間違いを正せる から。
- 授業の前に予習ができて、授業がわかりやすく理解できるようになったから。
- 授業では出されない問題が出てくる のですごく勉強になったから。
- 苦手分野とか、定期テストの対策になっていい。
- 5分やっても1・2回しかできなくて、そんなに効果がなかった。
- 難しい問題だと5分だと 時間が足りなくなる。
- 自分で選ぶのではなく、課題があるほうが取り組みやすいと感じた。
- 自分はドリルパークよりも 授業を受けたほうがよくできる気がする。

3. 研究の成果と課題

▶ (1) 成果

<研究仮説① (学習用 I C Tコンテンツ) について>

- 毎授業の冒頭 5 分間の主体的な学習を定着することができた。
アンケートの結果より、半数以上となる 64%の生徒が効果を実感できた。
- 「予習のため」「復習のため」「定期テスト対策のため」など、
各々が目標や課題をもって自発的に教材を選択し、コンテンツを活用することができたことがアンケートよりうかがえた。

3. 研究の成果と課題

▶ (1) 成果

<研究仮説②（習熟度別少人数授業）について>

- 習熟度に応じて、適切にクラス分け及び教材の精選を行うことができた。
その結果、生徒が授業で「わかるようになった」「楽しくなった」と感じるようになった生徒が多数を占めている。
- 検証授業で、「見いだす」⇒「自分で取り組む」⇒「広げ深める」⇒「まとめあげる」の実践モデルプログラムを取り入れた展開を実施できた。特に、「広げ深める」の中で「コース別課題解決学習」を取り入れたことで、「個別最適な学習」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現することができた。

3. 研究の成果と課題

▶ (2) 課題

<研究仮説① (学習用 I C Tコンテンツ) について>

- 効果を感じている生徒が半数以上である一方で、約3人に1人は効果が薄いと否定的に捉えている。実施させているだけの時間が多かったため、定期的に教師が評価・アドバイスを行うことでより効果的な取り組みとしていきたい。
- 5分では時間が短いと感じている生徒がいるため、定期的に端末を持ち帰り、家庭学習の教材としても扱っていききたい。

3. 研究の成果と課題

▶ (2) 課題

<研究仮説②（習熟度別少人数授業）について>

- 基本的な問題が解けるようになったと感じている生徒が多数を占めている一方で、応用問題が解けるようになったと感じている生徒は少ない。基本・標準コースに関わらず、様々な見方・考えをはぐくむ展開の工夫が必要である。
- 「実践モデルプログラム」や「コース別課題解決学習」を取り入れた授業は検証授業の前後のみだったため、定期的・日常的に実践できるように授業改善が必要である。